文学作品の比べ読みに関する授業研究

―「走れメロス」と「人質」の＜プロット＞比較から―

教育実践高度化専攻　教科指導重点コース　言語・社会科学系（国語）
上松　柚寿

本研究では、太宰治「走れメロス」における、シラー「人質」との比べ読みの授業について、比較が主題を読み取ることに還元されてしまうこれまでの実践から脱却し、「人質」との比べ読みには固有の価値があると示すことを目的として行った。そのために、＜プロット＞を比較の視点とし、人間味のあるメロスの姿を＜英雄の旅＞の＜プロット＞の中での表現や筆者の工夫として捉えさせた。生徒たちは＜プロット＞の展開を追って読み、人間味のあるメロスが「英雄」になろうとする姿を捉えるようになった。さらに、「人質」からの書き換えの効果を書き手の視点から捉えることにもつながった。

＜プロット＞構造や展開を踏まえて読みを形成することは、特定の解釈に作品の主題を還元することから脱却し、生徒たちに根拠をもって文章を評価する力をつけることを可能にする。比較により「走れメロス」の＜プロット＞の特徴を理解し、その構造の中で表現されていることや、筆者の工夫を読むことができるのが比べ読みの価値といえるのではないだろうか。